

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：祇園・新田自治会

開催場所：新田町公会堂

開催日時：平成 28 年 8 月 5 日（金）19 時 00 分～20 時 35 分

参加者：自治会側【地域住民の方 31 人】

市側【染谷市長、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、山内協働推進課係長】

内 容

① 増田自治会長あいさつ

- ・昨年度から祇園の天野会長さんから引き継いで本日開催の運びとなった。
- ・皆様のお考えになっていること、市政に対する質問など忌憚のない御意見をいただき、市長さんも市政報告ということで皆様に御説明をいただく段取りになっている。
- ・1 時間 30 分の予定となっているがどうぞよろしくお願ひしたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・本日は朝、自宅を 6 時 30 分に出て、名古屋の国土交通省中部整備局に要望活動に出かけ、その後、東京の霞ヶ関の国土交通省本省に出向き、島田の現状をお伝えして、国の予算獲得（補助金）のために要望活動へ行ってきた。例えば、大津通りの電線類の地中化事業の補助金は国の社会資本整備総合交付金の交付を受けているが、このような交付金の交付額が少ないと、事業の進捗に影響を及ぼすので、要望活動を継続して行っている。要望活動は、各局約 50 人の方にお会いしてお願いをする。河川、道路、都市の各局となるので、運動会のように国土交通省内を回ることになる。
- ・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なくまわるという事は難しかった。今の島田の抱える課題、私の考え方を皆様に知っていただき、地域の皆様の行政に対する意見や、この地域の事情、特性を教えていただいて、目で耳で肌で確認して、それを市政に反映したいということでもわっている。
- ・また、今年、来年の 2 年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、その参考にもさせていただく。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・今、島田だけでなく日本全国で課題となっているのが少子高齢化。一番の課題は人口減少。
- ・このような中であって、これまでの行政のやり方では立ち行かなくなっている現実が突き付けられている。2 年前に消滅可能性都市という増田レポート

が出て、日本全国で地方創生への取り組みをはじめた。全国約 1,700 の自治体のうち 896 自治体が 40 年後にはなくなっているかもしれないという内容のもので、私が市長になった 3 年前には、地方創生という言葉もなかった。

- ・日本の人口は 2008 年から減っているが、島田市では 1995 年から少しずつ減り始めた。子どもの数が減り始めたのは、1975 年（昭和 50 年）からで、もう 40 年も経っている。今すぐに子供の数を増やそうと思っても、そう簡単にはいかない。子どもの数を増やしていくには、これまでと同じ年月（30 年、40 年）がかかるのではないかと考えている。

- ・40 年前には、今とは違う価値観が社会の中にあっただが、それでも子供の数は減っていた。今はますます結婚する人が減って、結婚しない人が増えている。男性の生涯未婚率は 15% を超えている。初婚年齢は女性が 29 歳、男性が 30 歳となっている。女性が子どもを産める年齢が 40 歳くらいまでとしたら、なかなか 3 人、4 人と産めない時代になってきている。

- ・地方創生は、東京一極集中を是正して、地方で子どもを安心して産み育てられる環境を整備することにあるが、一自治体の努力で解決できる問題ではない。

- ・大学を出て 10 年間働かないと一人前になれないような状況や、育休、産休がとりにくい社会では、なかなか子育てはできない。なにより、若い人たちが結婚したいという社会にしていけることが必要。

- ・島田市では、生まれる赤ちゃんの数が、5 年で 150 人減っている。一方、65 歳以上の高齢者はこの 5 年間で 3,188 人増えた。

- ・祇園・新田の 7 月 31 日現在の世帯数は 271 世帯、人口は 663 人で、高齢者人口は 235 人、高齢化率は 35.4% となっている。市の平均が 29.3% なので、6 ポイント近く高くなっている。15 歳以下の人口は 77 人で人口に占める割合は 11.6% となっている。市の平均は 13.8% なので子どもの比率は 2 ポイント近く低くなっている。こう見ると、昔ながらの地域に皆さんがお住まいになっていて、由緒ある地域であると言える。

- ・旧市街地の周辺部では、買い物難民、交通弱者、高齢者の一人暮らしといった課題が大きくなってきている。

- ・前回第 107 回の島田大祭を紹介する広報しまだに、増田自治会長さんなどがお書きになった記事が載っており、その中に、御神体を御神輿に乗せて元宮まで 3 年に一度里帰りさせることが紹介されている。また、山伏姿の川越衆が大奴に姿を変えたとか、御神体が女性なのでゆすってはいけないため、あれだけゆっくり進むことなどがわかった。

- ・島田大祭は島田が誇れる祭りであって、島田市民みんなが知らなければいけないと思うし、伝統や価値、いわれをわかっていただけたら誇りに思うだろう。このため、お祭りに関わっていない地域にも、大祭や伝統や価値についてお話していきたい。

- ・市としても 3,650 万円の補助金を保存会などに交付をしている。そのような中でも、人材と予算が足りないという話を聞いているので、どうやって何を繋げていったらいいのかを考えなくてはいけない大事な時期にきていると思う。今回のお祭りが終わったら、次のお祭りのことについてしっかり検討をしていったらいいと考えている。

- ・島田大祭は日本三奇祭の一つだが、あとの 2 つについて諸説はあるが、山梨県富士吉田市の富士浅間神社火祭りと愛知県稲沢市国府宮裸祭と言われている。こうした地域は幸い地理的にも島田に近いので、島田が呼びかけて「三奇祭サミット」を開催したらどうかと考えている。

・森昌也氏が昭和 28 年に市長になられ、「市民の手による市民のための市政をつくります。」とおっしゃっている。20 年間、島田市政を行い、市民会館、市役所を建設し、大きな会社も誘致をして、町を大きく発展させた。昭和 48 年にお辞めになるときに、「私は、量的にこの町を大きく発展させてきた、だけど、本当に住みやすい町は、その量的な発展の上に質的な発展を遂げた町なんだ」ということをおっしゃって引退された。

・森さんの行政運営は今でもお手本となるものであるが、森さんと私とで確実に違うのは、森さんの時代は、明日は今日より必ず良くなって、土地も上がって、人口も増えて、町も大きくなる時代だった。一方、高齢化が進み、労働者人口は人口の約半分になっていく時代にあっては、税収が伸びない中で、新たな行政の形を見つけ、仕組みをつくっていかないと、その町は豊かにならないと感じている。

・ハローワークの署長、労金の支店長は転勤族だが、島田は暮らしやすいまちという感想をいただいている。その良さをアピールして、見せ方を考えて選ばれる町にしていく必要がある。

・私が今考えるまちづくりは、地域と行政がパートナーになって、地域課題などを行政に話をさせていただきながら、行政に全てを依存することなく、地域でここまでやれるので、行政にここの部分を支援してほしいという仕組みをつくってきたい。地域にあったオーダーメイドのまちづくりが必要。

・例えば、コミバスの本数が少なく、地域内で移動できないという課題に対して、市がワンボックスの車と保険とガソリンを負担し、地元では運転手をやっていただける人をカバーしてもらい、ローテーションを組んで走ってもらうことで、高齢者の買い物支援などに役立つ。

・例えば、湯日小学校という小さな小学校は複式学級になっているが、昔は放課後児童クラブなどはいなかった。しかし今は放課後児童クラブに通うお子さんがいる。一番近い初倉南小学校まで 5km。湯日小学校の全校児童数は 30 人くらいの学校なので、そこに放課後児童クラブは造れないという中で、どうやって南小まで子供たちを毎日運んだらいいのかということで、行政は、一時はタクシーを使うことも考えた。地元で相談したところ、地元の方々にはローテーションを組んで、迎えに行くのは親だから、送っていくことは一日一回だけだから自分たちで何とかすると言って、自分の車で子供たちを送ってくださっている。それに対して行政は、ガソリン代と車代と、お礼をお支払いしている。ここは放課後児童クラブも造れないが、働く親が増えて放課後児童クラブも欲しいという中で、地域の西部ふれあいセンターを使って、地元の人たちが自分たちで放課後に子供たちを見る。毎日ではなくて週 3 回くらい見ている。そんな活動もしている。

・川根では新たなキャンプ場を整備することに伴い、その運営を地元が法人化するなどして担い、地域でお金を回していくような仕組みができないかということについて、現在提案をさせていただいている。

・地域の活性化ということでは、地域と行政がもっと近くなって、いろんなことが言えないと町はよくなる。

・先日もある地域で、蔦が道路標識に絡まって見えないので取ってくれと言われた。ちょっと地元でやってくれればと思う。

また点字ブロックに蔦が絡まって危険と言う要望も、ちょっと切って払ってくれればという思いがある。そういう街になってくれればと思っている。

・今月の広報しまだの「市政羅針盤」に街路樹のことを書いている。(街路樹の落ち葉は迷惑ですか?というタイトル。)

・街路樹については、2 年前も鉛筆のように強剪定された街路樹を本当に痛々しいと思って見ていた。担当に聞いたら、葉っぱが落ちたら雨どいに詰まるとか、滑って転んだらどうするとか、市民の皆さんから色々なご意見もあって、葉っぱが落ちる前に切れと言われている。何度も何度もお電話をいただく

中で、そうせざるを得ないと言っていた。一昨年は7年に一度の強剪定だと言っていた。去年も同じように鉛筆みたいになってしまった。本当に街路樹がいらないのなら全部切って低木のつつじなどに植え替える。そのほうが、見通しが良くて皆さんが望むのなら。しかし、街路樹が必要だということなら、皆で緑の街路樹を楽しんだり守ったりできないと寂しいと思う。もちろん生活者の視点になれば困ることもいっぱいあるわけなので、当然のことだと思うし、車の通行量も昔とは違うので見通しが利かなかつたら困るし、色んな課題があると思う。街路樹を今後、どうしていったらいいかということについては、地域の皆さんのご意見をいただきたいと、対象地域に呼びかけている。

・まちのあり方、地域のあり方を考えていくときに、もう一度、こうしたことも含めて考えていく必要があると思う。

■市民会館について

・5月から市民会館を壊し始め、できれば、島田の大祭に間に合うようにスピードアップするようと言っている。この秋までに、市役所の隣にある市民会館は更地になって、当面の間は駐車場とイベント広場、そして、中心市街地の災害時の避難場所等に使っていこうと思っている。

・市民会館は県内でも2番目に早くできて、あの規模で、非常に音響も良くて、県内一の市民会館だった。島田の文化の中心だった。

・市民会館の再築については17,000人余の署名をいただいて、市民会館が市民の誇りであったということは十分承知をしている。

・市民会館が閉鎖になる直近の5年間について、本番であるホールを使っていたのは、年間で30日ほど。リハーサルを含めても、50～60日。新しく同じものを造るとなると、単独で建てれば70～80億円になると考えられる。

・市民会館の解体を現在行っているが、解体については2年間結論を出さなかった。市役所も築53年で手狭になってきている。病院は合併特例債という有利な起債を使い、平成32年度末までに完成した場合に活用できる。市役所も合併特例債が使えるが、平成32年度末までに造るとなると、借金の負担が後年度に一時に多くなる。(病院の建設費の247億円のうち医療機器の購入に約50億円かかる。医療機器の減価償却は短く、5年で借金を償還しなければならない。)

・おおりも築33年という中で、市役所、市民会館、おおりをどうするかということについて、検討委員会を立ち上げて検討していきたい。

・高度成長期の昭和40年代に多くの公共施設が建設されている。このため、一遍に耐久年数を迎える。小中学校は25校あるが、最近建て替えたところ以外は、そろそろ建て替えを考えなければいけない時期を迎えている。建て替えか長寿命化なのかを含めて考えなくてはいけない。ちなみに、学校建設の費用は、小さな学校でも15億円程度、大規模となると20億円程度を要する。

・これから子供の数が減少する中で、学校の規模と教育環境を合わせながら学校の新築は考えていく必要がある。

・同様に、島田市の道路延長は1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持していくことがメインとなっている。

・このように、行政(運営)のあり方が今までとは違った状況になっていることは御理解いただけると思う。

■市民病院の建て替えについて

- ・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。
- ・基本計画までに決まったことは、病床数を 445 床程度とすること。
- ・床面積は 35,000 m²、7～8 階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・今ある救急棟と検診センターは残す。救急棟は透析センターとして整備し、災害時の対応にも効果を発揮できるようにしたい。診療科目は今と変わらない。
- ・事業費は 247 億円を見込んでいる。今年中には、もう少し詳細について皆さんにご報告できると思う。
- ・地盤について心配をいただいているが、ボーリング調査もしているし、岩盤までの距離はあるものの、その間の土質は粘土質である。液状化は砂と水が混ざって起こる。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。
- ・周辺道路については、県道は緊急輸送路となっているので、多少の亀裂は入ったとしても、緊急車両が通行できるよう優先して復旧させ、市民の皆様安心して使っていただける、心の拠り所となる病院をつくっていきたい。
- ・医師の確保については、市民病院は昔から京大系といわれてきた。
- ・しかし、京都大学からは面倒を見れないと言われている。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりとおさえていきたいと思っている。浜松医科大学は医師の定員増を含めて、県内の学生を多く採っているので、今年あたりから医師が増えていく。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。コンスタントに 100 人前後の医師が市民病院に勤務できるよう大学等に働きかけを継続していきたい。
- ・島田の市民病院は循環器系が得意な診療科目。焼津はその科目が手薄で、患者さんは島田の市民病院に来る。一方、産科は島田の市民病院は手薄なので、医師の派遣を焼津にお願いするなど、広域で連携（機能を補い合うこと。）しながら対応をしている。
- ・行政の広域連携は、志太 3 市にとどまらず、中部 5 市 2 町、リニアの水の問題は 9 市 2 町で対応している。単独ですべての行政運営を賄える時代ではないので、島田の利になるように広域で組んでいく。

■高齢者の見守りについて

- ・いくら絆が強い地域であっても、行政も保健師などを一人暮らしの高齢者のお宅に派遣しているが限界がある。是非、地域での見守りが高齢者の皆様の安心につながるので地域のお力添えをお願いしたい。

■「稼ぐ力」について

- ・国道 473 号と新東名が交差するところに「にぎわい交流拠点」をつくる計画。これは、島田市が中心となって、JA 大井川、NEXCO 中日本、大井川鐵道の 4 者が連携してにぎわい交流拠点を造っていかうということで、島田市は新東名の下を、国から占用許可をいただいて、1,000 台弱くらいの規模で、富士山静岡空港のような無料駐車場をつくりたいと思っている。そこに車を置いて、奥大井あるいは島田市内に人が回遊する流れをつくりたい。JA については、農産品のマルシェ、魚のマルシェ、レストラン、物品販売、カフェ等をつくりたい。大井川鐵道については、そこに新駅をつくって、SL を見ながらお茶を飲めるような場所をつくりたい。そこから SL に乗れるような基地にしていきたい。
- ・なぜ、ここに交流拠点をつくるのかというと、川根筋に誘客を考えた場合には、観光バスの走行距離 500 km という壁がある。首都圏から往復の距離にして 500 km が島田金谷インターチェンジ付近になる。(観光バスの走行距離が 500 km を超えると運転手をもう一人追加しなければならなくなり、経費も掛かるため、観光ルートとして敬遠されてしまう。)
- ・車と大鐵の時刻があって乗り継ぎがいいということになると、今、国土交通省が推奨している「ボーダルコネクト」という、様々な交通機関を繋げて次につなげていくということを施策として取り組んでいるが、新宿のみが実施している。是非、観光版ボーダルコネクトを金谷でできないかを検討していきたい。
- ・新東名高速道路島田金谷 IC 周辺の 84ha を内陸フロンティアとして指定した。牛尾山も含め、全てを工業団地にしていくことは難しいが、今、農振除外と受益地の除外に懸命であるが、目途が立ってきており、進出したい企業とのマッチングの話し合いも行ってきている。また、ここに進出したい企業がどのくらいあるのかを調査をかけて、要望のある企業の現地説明会を行ったり、税制優遇措置、補助金等の制度の説明などの売り込みに力を入れている。
- ・この地域は、大井川の伏流水による良質な水が豊富である。新東名の沿線ではこの地域ほど可能性を秘めた地域はない。新たな産業構造を生み出せる可能性がある。
- ・金谷中学校跡地に、5.5ha の土地がある。空港から近く、お茶の郷からも歩いて行ける。ここについて、民間の力を活用して、大規模開発ができないか検討しており、出てきたい企業を拾い集めているところ。今年度事業コンペまでもっていききたい。

■蓬萊橋周辺整備等について

- ・蓬萊橋は年間 12 万人余のお客様がみえる。蓬萊橋は、これまでは国土交通省の所管であり、なかなか物を建てることができなかった。
- ・規制緩和もあり、ずっとお願いしてきたこともあり、物を建てるもよいという許可をいただいた。ミズベリングという協議会をつくり、答申をいただいた上で、来年の新茶の時期に間に合うように、お休み処と、物品販売する場所を造りたいと思っている。
- ・同時に、幕臣 800 人を率いて牧之原台地の開拓に入った中條景昭を派遣した洋装の勝海舟の銅像を、牧之原台地を望むところに建てたい。勝海舟の幕臣 800 人を励ます胸の熱くなるような手紙が、去年、千葉で発見されるなど、島田と勝海舟のつながりが、子ども達の誇りになるよう教育もしていきたいし、観光の名所にもしていきたい。最初は、左岸側の番小屋の近くから来年の春を目処に整備を始めていきたい。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■島田大祭のPRについて</p> <p>前回の島田大祭の時に、浜松のくれたけ（ホテル）から泊まりに来ませんかとの連絡があった。その日は島田大祭だからいけないという話をし、大祭があることを知らないのか聞いてみると知らないと言われた。島田大祭が県内のホテルで認知されていないようで残念な気持ちになった。</p>	<p>●もっともっとPRしていかなければならないと思っている。静岡県では広域で観光に取り組むようにしている。特に中部5市2町は、東京から専門の人を雇って、マネジメントを行ってお金が落ちる仕組みを作っていこうとしており、このようなものを活用していきたい。</p> <p>昨年の大井川マラソンの時に、選手から、「焼津のホテルに泊まったが、そのホテルの従業員はマラソンのことを知らなかった。」と聞いた。地域の中で相互に連携して情報を共有し、色々なことで助け合っていかなければならない。オリンピックの誘致も同じ。島田大祭は三大奇祭のトップに行くお祭りであると思っている。中を知れば必ずそうであることが分る。市民の皆さんが島田大祭を知るような場所や時間をつくったほうがいいと思う。祭りの裏半纏はみなさんいいものを着ているので、お祭りを盛り上げるために、1カ月前くらいに、博物館で展示するなどすれば盛り上がるのではないかと。役所の玄関でもいい。</p>
1-2	<p>■今、島信の本店に1街から7街までの青年の半纏が飾ってある。</p>	<p>●皆さんの自慢のものを取り上げられたらうれしい。</p>
2	<p>■環境教育について</p> <p>8月2日の静岡新聞の朝刊に、「川遊びや昆虫採集、児童ら自然と触れ合う」というタイトルで、静岡市の麻機遊水地で生き物の観察会が開催され、子ども50人と保護者が参加して、昆虫採集や川遊びを楽しんだ。水生植物の観察なども行い、川遊びでは小魚やカニなどを捕まえた。たくさんの生き物を捕まえられて楽しかったとの参加者の感想があり、巴川流域麻機遊水地自然再生協議会と平井工業が毎年開催しているとの記事である。今の川は排水路で魚も昆虫もいない。島田市でもビオトープの整備ということでホームページに載っており、公共施設のビオトープの整備ということで、水辺の動植物を集めて自然との触れ合いができるビオトープを整備することが目的とされている。公共施設の整</p>	<p>●ビオトープは学校施設に多くあるのが現状。この施設を通じて、子どもたちへの環境教育に取り組んでいるところ。東光寺谷川のホタルもさることながら、抜里もホタルの再生に取り組んでいる。さらに湯日川では、河床を段々にして遊べる川にしている例もある。このように市内でも自然体験できる場を整備している。伊久美川も同様の取り組みをしている。しかし、島田にはここがあると行った代名詞になるようなものはない。排水基準は非常に厳しいため、水質は問題ないが、水量が少ないために悪臭などの問題が起きている。大井川が上流に15ものダムがあり、一滴残らず水利権で分けられている現状がある。表流水である維持流量の確保のために、関係機関と協議を行うが、この協議も10年に一度となっている。</p>

	<p>備にあわせ整備を検討していくとの目標になっているが、実績は、検討の結果、新たな整備はしなかったとされている。東光寺谷川のホテルの取り組みや博物館周辺の河川敷でこのような取り組み（ビオトープ）ができないかと思う。市の考え方は。</p>	
<p>3-1</p>	<p>■障がい者福祉について</p> <p>障がい者の年齢が高くなって、それを引っ張っていく親も生活に追いついていかない親が増えていると感じている。作業所に通うために親が送り迎えできない場合には「どうしようか」という課題が出てきている。タクシーの利用も検討をしなければいけない状況にある。</p> <p>あさひ学園の時の例でいえば、最初はタクシーでの送り迎えをしていた。自分で通うことができる子もいればできない子もいて、費用負担の課題もあることから、これからのあり方を考え直す必要があるだろうと思っている。一つの方法として、親と子供を一緒にしてしまうという方法。親は元気であれば手伝いもできるであろうし、子どもの棟と親の棟を分けて何か事業ができないか考えている。</p>	<p>●この前お話を聞いたとき、「この子を残して死ねない」というお話があったが、それよりも前に、障がいのあるお子さんたちが認知症になるかもしれない親を支えなければいけない時代が来るという深刻なお話をいただいたのを覚えている。そのお話の後、制度上のことなどを勉強した。今、一番課題だといえるのは、小さなお子さんへの支援は国も施策を打っており、障害児の放課後児童クラブなどは全額無料となっている。一方で18歳から20歳までの成人のサービスが受けられるまでの間については、空白になっていて、作業所から帰ってきてから保護者が帰ってくるまでの居場所がないという問題や、特に重身さんの場合には、高校を出た後の行き先がなかなかなく、家の中で過ごさなければならないという課題もある。こういった方々の出かける場をつくっていくことを、次期福祉計画に盛り込めないかという検討を担当としているところ。国が施策を講じていない以上、市がどこまで市単独でできるかということもある。国は新たな事業に取り組んでも3年しか補助金等の面倒を見てくれないため、こういった仕組みだったら継続して取り組めるのかということも含めて話し合いの場を持たなければいけないと思っている。</p> <p>もう一つ、施設も課題だと思っている。障がい者の場合、入所すれば高齢者施設と違って長ければ50年近くはその施設にお世話になる。したがって、その施設は非常に大事であって、経営者には責任がある。理念を持った運営ができているのか、そのチェックが必要だが、市には立ち入りの権限がない。県はできるが市は報告書しかもらえない。このような方のように取り組んでいくかについて、今、慎重に方向性を模索している状況で、またご意見を聞かせていただきたい。一緒に話をさせていただきたい。</p>

3-2

■私も作業所の所長を月 18,000 円程度でやってきたが、非常勤の所長では何かあった時に責任が負えなくなるので、法人にお願いをした経緯がある。自分たちでもう少し頑張っただけで、面白い取り組みができたのではないかと今になって思っている。当時は、自分たちの生活も考えなくてはならないような状況であったので、やむを得なかった。今では、島田作業所の利益は年間 300 万円程度あるので、自分たちでも運営ができたのではないかと感じている。

●障がい者だけではなくて、例えば、介護保険のサービスは島田市だけで 72 億円。利用者は 1 割ないし 2 割負担であるが、国県市で 46 億円程度を支出している。23 億円程度を 40 歳以上の方の介護保険料で賄い、残りを 65 歳以上の方たちが年金等から支払いをしていただいている。島田市の介護保険料は標準額で 4,550 円（県内で下から 3 番目くらい安い）。全国の平均が 5,514 円。この保険料も介護サービスを使えば上がっていくことになるので、元気で長生きできる施策をしている。

後期高齢者医療費は、島田市だけで年間に 100 億円。

国民健康保険料も上げたくはないし、皆さんも高いとお感じになっているかもしれない。例えば、オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受けたが、1 年間薬を飲むと 3,500 万円掛かる。C 型肝炎の薬も一錠 7 万円で、3 ヶ月服用しなければならないが 720 万円掛かる。この薬を飲んでも、個人負担は月 2 万円となっている。透析患者さんも 1 万円の自己負担になっているが、年間 500 万円程度は医療費がかかると思う。そうすると国民健康保険などの医療費の負担は大きくなっていくのが現状である。いいサービスを求めようと思うと保険料も上がっていくことになるため、市町において格差も出てきていることから、平成 30 年度から保険者が市から県に移管される。その時の保険料をどのように調整していくかというところが検討課題になる。国も毎年医療費が 1 兆円以上増えている。公共事業に充てる予算は 10 年前に比べれば 3 分の 1 に減っている。島田市も一般会計に占める扶助費（介護、医療、福祉）の割合が 3 割であったが、今年度は 33% となっている。たった 3% 増えているだけだが、金額では 10 億円以上増えたことになる。2025 年までは高齢化が進むが、2030 年を境に高齢者の数が減って、人口が急激に減少する時代を迎えるという統計がある。こうしたことから、介護予防に力を入れて、元気で長生きできる政策を継続して進めていく。最近はずかな年金で暮らしている方がすごく多くなった。ここで安心して暮らせる、命を守るということは政治の役割。このことを

		<p>ベースとしてしっかりやっていきたい。</p>
<p>4-1</p>	<p>■公共下水道事業について 公共下水道事業の進捗状況とこの地域が事業の対象になっているのかを伺いたい。</p>	<p>●昭和 61 年に公共下水道基本計画を策定して、1,087ha を認可区域にしている。いつの時点かは定かではないが、公共下水道から合併処理浄化槽を設置する政策に転換してきたと思っている。県内 35 市町の中で、島田市の普及率は最低となっている。区画整理が未整備の入り組んだ道路の下に管を埋設しても、今度区画整理といった時には（工事等が）難しくなるといったような様々な課題がある中で、合併処理浄化槽の設置については、補助金を交付している。例えば、水道料で 5,000 円かかったとして、下水道使用料でも 5,000 円程度かかるとした場合、ご高齢世帯であるとその負担は大変である。合併処理浄化槽の場合には、施設ごとに設置されているため、災害には強いという利点もある。（復旧が早い。）一方、公共下水道は災害時の復旧に時間がかかるという懸念がある。国は、施設等の更新に対する補助金は交付しても、新設の施設に補助金を交付する時代ではなくなってきた。</p> <p>違う事例だが、六合の駅南地区では、道路が狭いので道路整備の要望が出され、平成 6、7 年頃にそうしたことをやろうとした。しかし当時は、3 割程度の減歩ではあったが、土地価格がまだ上がっていたので、土地の面積が減っても土地の価値は変わらない時代だった。今は、土地価格が下がっている時代なので土地の資産価値は下がる一方になってしまう。このため面的な整備ではなく線的整備を実施していくことになっている。</p> <p>本通の商店街をもっと元気にしないのかと言われるが、丸ごと商店街が元気になった例は、全国でも例がないと思っている。しかし、一つ一つの店舗を元気にしていく中で、町が元気になっていく方法はある。リノベーションと言って、不動産を持っている人たちと組んでやらなければいけないもの。商店街は、裏に人が住んでいるし、電気、ガスなども一緒だし、本通側だけ貸すというのが難しい状況。裏の住人がお店を歩いて外に出なければならないといったこともある。また、高齢化により、新たな投資に</p>

		<p>より新たな商売を始めるかというともななかなか難しい。本当に困っていたら何とかすると思う。今のままでも暮らしていけるという現実もある中では（町は）動かない。さらに借地も多いこともあって、活用にはいくつかの壁がある。島田は、公民連携でリノベーションに取り組むために職員にも研修に行かせて、市民の皆さんと協力しながら町の活性化について、新たな手が打てるのではないかと考えている。</p> <p>（認可区域の図を示しながら）この地域については、公共下水道事業の区域に入っていない。公共下水道事業の区域に入っていない地域には浄化槽設置の補助金を交付している。</p>
4-2	<p>■補助金額はいくらくらいになるのか。 また、工事費はどれくらいになるのか。</p>	<p>●単独浄化槽からの切り替えの場合には一律 65 万円。新築または汲取り便所からの切り替えの場合には 21 万円となっている。工事費は 7 人槽で概ね 100 万円程度ということらしい。下水道課が担当なのでまた聞いていただければと思う。</p> <p>※平成 28 年度から補助金額が変更となりました。金額を訂正させていただいておりますので、ご了承下さい。</p>
—	<p>事務局において上記 4-2 の質問内容を調べている間に市長から説明。</p>	<p>■防災関連予算の増額補正について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田市の耐震化率 80%。昭和 56 年以前に建てられたお宅は新しい耐震基準を満たしておらず、無料で耐震診断をするので受けてほしい。 ・診断の結果、耐震性がないとなった場合には、耐震補強をしてほしい。 ・島田市は耐震補強の補助金を出している。耐震診断して耐震補強となれば 100 万 200 万というお金がかかる。70 万くらいの補助金をもらっても、やっぱり自腹で 50 万 100 万は大きいから、「もう来た時は来た時だよ」って言う方も実はいらっしゃる。守れる命はとにかく 1 人でもしっかり守るために、6 月の補正予算で予算化した。今まで高齢者が 70 万円だった補助金を 80 万円に、そして 65 歳以下の方たちの補助金を 50 万円から 60 万円に引き上げて、県内の 23 市の中ではトップクラスの補助金にした。それと同時に、家の中に入れる屋内シェルターに対する補助を予算化した。ベッ

		<p>ド二つ分とあとは食料品を置けるくらいの大きさのもので、四畳半の中に入れてもらうような大きさで大体30万円前後。家の畳の下の補強など多少必要かもしれないが、大きな負担なくほぼ全額に近いお金で屋内シェルターを設置できる。もう一つは耐震ベッド。ベッドの四隅に柱と天井をつけて、寝ている間とはにかく家がつぶれても人は大丈夫だというもの、これは20万円の補助をする。約1,200万円程度の予算規模になるが、すでに、補助の申請もいただいております、屋内シェルターと耐震ベッドは、おおりの西側に展示しているのでご覧いただきたい。</p>
--	--	--

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

